

環境目標と実績

主要な環境活動について目標値を定め、環境負荷の継続的な低減に努めています。

項目	単位	実績			2012年度 目標値	
		2010年度	2011年度	2012年度		
地球環境問題への取組み	販売電力量あたりのCO ₂ 排出量 []はCO ₂ 排出クレジット等反映前*3	kg-CO ₂ /kWh	0.348 [0.385]	0.503 [0.525]	0.599*4 [0.612]	2008～2012年度平均の 販売電力量あたりの CO ₂ 排出量を1990年 度実績比20%程度低減 (0.348kg-CO ₂ /kWh 程度にまで低減)
	2008～2012年度平均: 0.429					
	CO ₂ 排出量 []はCO ₂ 排出クレジット等反映前*3	万トン-CO ₂	3,050 [3,370]	4,300 [4,480]	5,020 [5,130]	
	販売電力量	億kWh	875	854	838	
	原子力利用率	%	81.1	31.4	0	—*5
	再生可能エネルギー(太陽光・風力) 設備導入量(累計)*6	万kW	96	115	155	2020年度末までに 300程度
	送電端火力総合熱効率(高位発熱量ベース) []は低位発熱量ベース換算値*8	%	39.5 [42.1]	39.5 [42.2]	39.2 [41.8]	—*5
	送配電ロス率	%	5.0	4.7	4.4	—*5
	オフィス電力使用量	百万kWh	81	69	58	69以下
	コピー用紙購入量	トン	539	554	528	570以下
上水使用量*10	m ³ /人	32	28	25	32以下	
電気自動車導入台数(累計)*11	台	131	165	187	2020年度末までに 1,000程度	
一般車両燃料消費率*12	km/ℓ	12.1	12.1	12.4	12.0以上	
SF ₆ 回収率	機器点検時	%	99	99	99	98以上
	機器撤去時	%	99	99	99	99以上
	機器点検時の規制対象フロン回収実施率	%	100	100	100	100
循環型社会形成への取組み	産業廃棄物リサイクル率	%	約100	約100	99	99以上
	石炭灰リサイクル率	%	100	100	100	100
	石炭灰以外リサイクル率	%	98	98	97	98以上
	産業廃棄物社外埋立処分量	トン	143	38	9	500以下
	古紙リサイクル率	%	100	100	100	100
	グリーン調達率*14	%	約100	約100	約100	100
地域環境の保全	火力発電電力量あたりのSO _x 排出量	g/kWh	0.27	0.27	0.30	—*5
	火力発電電力量あたりのNO _x 排出量	g/kWh	0.21	0.25	0.29	—*5
	原子力発電所周辺公衆の 線量評価値(1年あたり)	ミリシーベルト	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満

※1: 2012年度目標値に対する2012年度の達成状況を、「○:達成」、「△:概ね達成(達成率80%以上)」、「×:未達成(達成率80%未満)」の3段階で評価。
 ※2: 下線部は目標を見直した箇所。 ※3: CO₂排出クレジットによる削減量及び余剰買取制度・固定価格買取制度による調整の反映前。
 ※4: 暫定値であり、正式には「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、国が実績値を公表。
 ※5: 原子力発電所の運転再開に関する見通しが不透明であること等により設定を見送り。 ※6: 自社開発及び電力購入による設備導入量。
 ※7: 至近の導入実績や「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」開始に伴う太陽光の連系申込急増を踏まえ、導入見通しを拡大(従来比+400万kW)。
 ※8: 総合エネルギー統計の換算係数等を用いて換算。
 ※9: 節電の徹底を図る観点から、至近実績を踏まえ目標を深掘り(従来比▲11百万kW)。

用語集を
ご覧ください

- 地球環境問題
- CO₂排出クレジット
- 原子力利用率
- 再生可能エネルギー
- 熱効率
- 発熱量
- 送配電ロス(率)
- 上水
- 電気自動車
- SF₆(六フッ化硫黄)
- 規制対象フロン
- 循環型社会
- 産業廃棄物
- リサイクル率
- 石炭灰
- グリーン調達
- SO_x(硫黄酸化物)
- NO_x(窒素酸化物)
- 線量評価値
- シーベルト
- 余剰買取(制度)
- 固定価格買取制度
- 地球温暖化対策の推進に関する法律

評価 ^{*1}		2013年度 目標値 ^{*2}	関連 ページ
×	電気の供給面と使用面からの取組みやCO ₂ 排出クレジットの調達などに努めましたが、原子力発電所の運転停止の長期化に伴い、火力発電量が大幅に増加した結果、2008～2012年度平均の販売電力量あたりのCO ₂ 排出量は1990年度実績比1.6%の低減にとどまりました。今後とも低炭素社会の実現に向け、電気の供給面・使用面の両面からの取組みにより、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。	国のエネルギー・環境政策等を踏まえ、目標のあり方を含め今後検討	11
-	東日本大震災の影響等により、年間を通じて稼働はありませんでした。	— ^{*5}	
-	2012年度末までに累計で、風力43万kW、太陽光112万kW、合計155万kWが導入されています。今後とも、グループ会社を含めた積極的な開発や電力購入を通じて、再生可能エネルギーの導入拡大を図ります。	2020年度末までに 700程度^{*7}	12 15
-	原子力発電所の停止に対応するため、比較的熱効率の低い石油火力発電所の稼働率が増加したことにより、前年度を若干下回る39.2%となりました。今後とも、新大分発電所など高効率発電所の高稼働維持等により、熱効率の維持・向上に努めます。	— ^{*5}	16
-	送配電設備の高効率化や設備の効率的な運用等に努めたことにより、前年度より若干低下しました。	— ^{*5}	
○	空調の適正管理や照明・エレベーターの間引きなど、徹底した節電・省エネに継続的に取り組んだことにより、目標を達成しました。	58以下^{*9}	18 19
○	電子文書の活用によるペーパーレス化の推進やミスコピーの防止、及び古紙の裏面利用の徹底により、目標を達成しました。	570以下	
○	節水活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	32以下	
-	車両配車計画に基づく計画的な導入により、2012年度末までの累計導入台数は187台となりました。今後とも、収支状況等を踏まえつつ、中長期的な温暖化対策の観点から、社用車への電気自動車の導入拡大を図っていきます。	2020年度末までに 1,000程度	20
○	車両燃費管理やエコドライブの実施など、運用管理の徹底や低燃費車への計画的な切替えにより、目標を達成しました。	12.0以上	
○	点検時・撤去時における真空型SF ₆ ガス回収装置の使用徹底等を図り、目標を達成しました。	98以上	22
○		99以上	
○	法令基準レベル（撤去時における法定圧力）までの規制対象フロン回収の確実な実施を図り、目標を達成しました。	100	
○	石炭灰の特性を活かしたセメント原料やコンクリート混和材等への石炭灰の100%有効利用に加え、全社共同回収による産業廃棄物の確実な回収・リサイクルなど、3Rの着実な実践に努めましたが、石炭灰以外リサイクル率が若干の目標未達成となりました。今後とも、循環型社会の形成に向け、3Rを着実に実践していくことにより、目標達成を図っていきます。	99以上	23
△		100	
○		98以上	
○	古紙100%リサイクル活動の継続的な取組みにより、目標を達成しました。	100	
○	社内への周知徹底やお取引先との協働などにより、目標である100%をほぼ達成しました。	極力調達^{*15}	24
-	地域との環境保全協定は遵守しているものの、原子力発電所の停止に伴い、火力発電電力量あたりのSOx・NOx排出量が比較的多い発電所の発電電力量が増加した結果、SOx・NOxともに前年度実績を上回る結果となりました。今後とも、熱効率の維持・向上に努めることにより、排出量の低減を図っていきます。	極力抑制^{*16}	27
-		極力抑制^{*16}	
○	適正な設備運用や放射性廃棄物の管理により、目標を達成しました。	0.001未滿	31

用語集を
ご覧ください

- 低炭素社会
- 温室効果ガス
- エコドライブ
- 低燃費車
- 3R
- 環境保全協定
- 放射性廃棄物
- プラグインハイブリッド車

※10：全社の上水使用量を当社在職者数（当該年度末）で除した値。
 ※11：プラグインハイブリッド車を含む。
 ※12：電気自動車（EV）は除外。
 ※13：修繕工事の規模・頻度等により大きく増減するため、目標設定を取り止め。
 ※14：調達範囲は、汎用品（事務用品、雑貨等）で社会的に認知された基準に適合した製品等。
 ※15：活動がほぼ定着していること等を踏まえ、定性目標へ変更。
 ※16：石油火力発電所の利用率により大きく増減するため、定性目標へ変更。